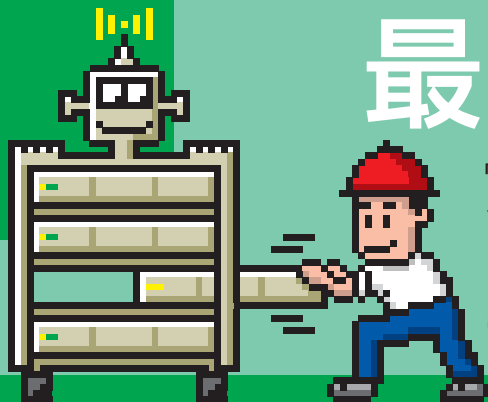


レンタルサーバーは 最新機能で選べ!



「どのサーバーも似たり寄ったりだから安ければいい」と思っているのだとしたら、それはレンタルサーバーの現状に気づいていない証拠。オンラインショッピング、ブログ、CMS、各種セキュリティ機能などに加え、手厚いサポート体制を用意するレンタルサーバー事業者も出てきて、「至れり尽くせり」サーバー時代に突入しているのだ。この時代に乗り遅れるな!

text : 梅垣まさひろ

あらゆる機能を備えた 万能のレンタルサーバーが急増

レンタルサーバーの高機能化が止まらない。ここ数年で、コントロールパネルの採用が広がって管理が簡単になり、大半の機能がサーバーOSに直接ログインしなくても使えるようになった。どこのレンタルサーバー事業者でも、Webminやmailmanのようなブラウザベースの標準ツールが採用され、差がなくなってきた。

しかし、これらのツールがあたりまえになってくると、さらに差別化が進むのは時代の流れだ。たとえば、ショッピングサイトでは、ショッピングカートの機能を提供するだけでなく、クレジットカード決済のシステムを用意したり、広告宣伝まで手伝ってくれたりするサービスが出始めている。また、個人情報流出事件を受けて、ユーザーにオンラインショップに対する懐疑的な見方が広まっているだけに、セキュリティの確保も重要課題だ。ウェブも簡単な掲示板機能やCGI、PHPなどをサポートするだけでなく、CMS(コンテンツ管理システム)をインストール可能にしたり、ブログを積極的にサポートしたりする傾向も顕著だ。データベースのサポートはすでに標準と言って差し支えないだろう。ウィンドウズサーバーを使って管理の容易さを売りにするところも増えている。グループウェアでさえも、自社にサーバーを置かない傾向が急速に進んでいるのだ。

ECサイト向け ショッピングカード オンライン決済など

ショッピングカートは、オンラインショップを開業するうえで欠かせない機能だ。しかし、もっと重要なのはユーザーの安心感と決済手段の提供だ。SSL暗号化通信を利用するのは当然で、それは安心感を生み出して安全なショッピングを提供するものの、売り上げに直接結びつくとはかぎらない。販売という点では、むしろクレジットカード決済機能のほうが重要だろう。また、オンライン広告を使った販促方法を提供するなどショッピングの売り上げまで考えたレンタルサーバーなら心強い。

中小企業では、自社のウェブサイト、自社のメールサーバー、共有ファイルサーバーなど社内のあらゆる情報化にレンタルサーバー1台で対応できればコストパフォーマンスは格段によくなる。ブロードバンド環境さえあれば、もうサーバーはどこにあってもいい時代なのだ。若干追加料金はかかるが、グループウェアを利用すれば外回りの営業マンとの情報共有もよりスムーズに行える。

中小企業向け グループウェア 簡易ファイル共有など

個人向け ホームページ作成支援 ブログ メールリスト運営など

個人でレンタルサーバーを使う場合には、独自ドメインを持つというのが最大のポイントだが、加えてCGIや自前のスクリプト、PHPなどを動かしたい。しかし、それに加えてやはりどうしても入れておきたい機能がブログだ。単なる掲示板に比べて格段に管理しやすく、見やすいデザインだ。仲間とコミュニティを作りたいときには、メールリストと並んで欠かせない機能だと言えるだろう。



Part 1

アンケートやオンラインショップで利用者に安全を提供

共用・独自SSL標準対応で手軽に サイトに取り込もう

オンラインショップで顕著な セキュリティ対策を施す場面

個人情報の流出事件が多発しているなか、利用者はオンラインショップを厳しい目で見始めている。厳格に情報流出を防ぐことはもちろん、利用者が安心できるサイトを構築することが求められている。

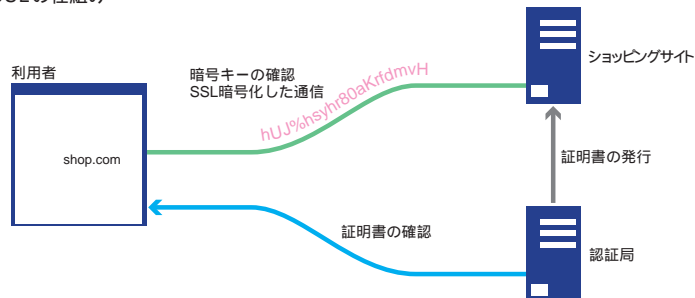
たとえば、アンケートシステムでは、入力画面がSSL暗号化通信に対応しているのはもちろん、ショップのオーナーがアンケート結果を参照する段階でもセキュリティが確保できていなければ意味がない。住所や電話番号、クレジットカードの番号を取り扱うショッピングサイトでは、細心の注意が必要だ。オンラインでのクレジットカード決済システムが完備されていれば、オーナーはカード番号を知る必要がない。ユーザーに見えるウェブだけでなく、管理も含めたすべてが安全であることが重要な点だ。また、メールで個人情報を受け取る可能性もあるから、メールサーバーも受信経路を暗号化するPOP over SSLなどのセキュリティを確保したサービスが求められる。個人情報の保護ポリシーも明確にすることで、安心できるショップというイメージを利用者に訴求できる。これで初めて安心して個人情報を入力してもらえようになるのだ。

導入しやすくなった

サーバー事業者が提供するSSL

SSLには、独自SSLと共用SSLがある。ユーザー自身がSSL証明書を取得して利用する(独自SSL)のが最良だが、共用SSLであっても証明書そのものが安心感を与えられるのであれば問題はない。また、共用SSLなら標準で提供しているレンタルサーバーもあるので、ちょっとしたアンケートシステムなどでは共用SSLで十分だ。

SSLの仕組み

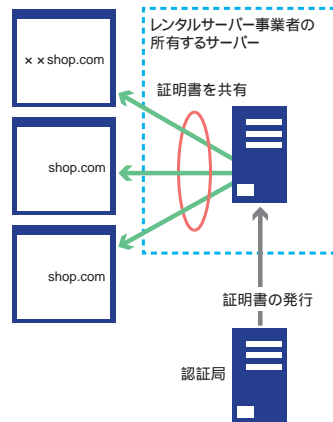


認証局が発行した正しい証明書であることを確認できれば、暗号化できるだけでなく、そのショッピングサイトが認証局によって確認された「存在する」会社であることを明確化できる。

共用SSLと独自SSLの違い

共用SSL

レンタルサーバー事業者が用意したSSL証明書を複数のユーザーで用いる方法だ。この場合、レンタルサーバー事業者がSSL証明書を持っているので、面倒な手続きはいらず、コスト負担も小さい。無料で提供するレンタルサーバーもある。ただし、SSL証明書はサーバーごとに発行されるので、SSL通信を行うページは独自ドメイン名ではなく、レンタルサーバー事業者のものを利用することになる。コストパフォーマンスを重視した手軽なSSLだ。



共用SSLの場合、レンタルサーバー事業者にSSL証明書が発行され、SSL通信を行う際にレンタルサーバー事業者が所有するSSL証明書およびドメイン名を利用することになる。

独自SSL

自社で認証局からSSL証明書をもろう方法。証明書には会社名が入るため利用者の安心感が高い。ただし、個人には発行してもらえない。また、独自SSL証明書を発行してもらった場合、インターネットエクスプローラなどのブラウザに「信頼された証明機関」としてあらかじめ登録されている認証局を利用したい。そうしないと、実際には問題はないけれども「証明書に問題がある」というユーザーを不安にさせるメッセージが出てしまうことがある。



クリックして
証明書の内容をご確認ください。

シーサイドネットが提供するセキュリティを重視したC/S SERVER Professionalでは、SSL証明書の「セコムパスポート for WEB」を標準装備する。独自SSLなので、ウェブサイトに表示するステッカーの上部には、ユーザーのドメイン名が入り、安心感は抜群だ。



Part 2

ウイルス駆除やスパム対策など高性能化が進む

フィルター機能で効率よくメールを受信しよう

サーバーインストールと駆除ソフトでウイルス対策を二重化する

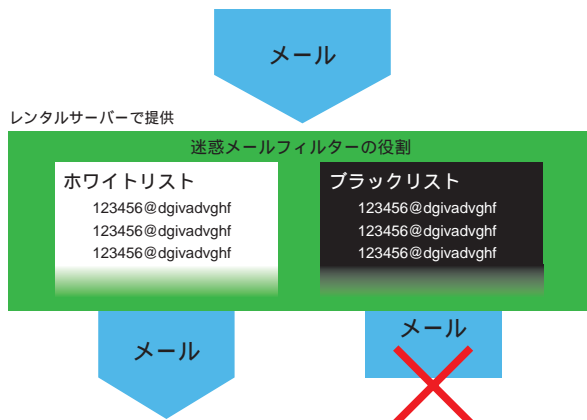
現在のウイルス感染の大半がメールを介した感染だ。レンタルサーバーでは、大量のスパムとウイルスが送られてくる可能性が高い。メールサーバーでウイルスを駆除できれば、パソコンにウイルス駆除ソフトを入れていなくても安心だ。自社のメールサーバーから成りすましてウイルスメールが送られると、会社の信用問題にもなりかねないので、サーバーでウイルスを駆除するのが有効だ。メールサーバーを使ったウイルス対策の場合、ウイルスを検出するためのパターンファイルがサーバー側で自動更新されるので、ユーザーの手間も要らない。さらに、クライアントのパソコンにもウイルス対策ソフトを入れておけば、メールに関しては完璧だ。

大量の迷惑メールをうまく処理するフィルターを導入しよう

迷惑メール(スパム)対策には2つの目的がある。1つは、サーバー自体がスパムホストにならないこと、そして2つ目は受信した迷惑メールをどう処理するかという問題だ。前者は、メールを送信する際に認証を行うPOP before SMTPなどを導入すればいいが、問題は後者。迷惑メールは、本来必要なメールよりも数では上回ると考えておいたほうがいい。決定打と言える解決策はないが、基本はブラックリスト/ホワイトリストを使った制御だ。とにかく、迷惑メールをサーバー側またはメールソフトのブラックリストに登録していくことで受信を拒否するのだ。

ここで問題になるのが、登録のしやすさだ。迷惑メールは、メールアドレスを微妙に変えたり、ドメイン名を乗り換えたりして送られてくるので、登録が面倒だと数をこなせず、お手上げ状態になってしまうだろう。

迷惑メールフィルターの仕組み



ブラックリストには受信したくないメールアドレスやドメイン名を、ホワイトリストには必ず受信するものを列挙していく。また、スパムの判断をある程度自動化した迷惑メールフィルターをオプションで提供するレンタルサーバーが増えている。

迷惑メールフィルターの設定画面

ラビッドサイトが提供するレンタルサーバー「VPS」の迷惑メールフィルターの設定画面。「to:」「from:」の2つのヘッダーで、それぞれホワイトリストとブラックリストを設定できる。

ウイルス対策サービスの注意点

レンタルサーバーの基本料金に含まれているか？

基本料金に含まれている場合もあれば、1アカウントあたり月額数千円かかるものまで料金体系はさまざま。契約する前にチェックしておきたい。

ウイルス定義ファイルの更新頻度は？

ほとんどのレンタルサーバーで、自動更新により毎日アップデートしているはず。更新頻度が低ければ、そのサービスはまず役に立たないと考えよう。

ウイルスチェックは送受信対応か？

ゲートウェイ方式を採用していれば、送受信ともすべてチェックされる。成りすましによるウイルス送信も防ぐことができる。



Part 3

個人から法人までSEO対策でアクセス数を稼ぐ

アクセスログ収集&解析サービスを使いこなそう

アクセスログで

訪問者の行動パターンを知る

アクセスログは、サイトの訪問者の行動パターンを解析するうえで欠かせない情報源だ。どの曜日にアクセスが集中するのか、アクセスは何時ごろが多いのかといったことがわかれば、ユーザー層が漠然と見えてくる。さらにドメイン名を組み合わせれば、会社の中から仕事に見ているのか、あるいは自宅から見ているのかといったこともわかってくる。

また、どのページがよく参照されているかを調べれば、利用者が見たいコンテンツはどれなのかがわかるし、あるページを見たあとに、そのページにあるリンクがあまりクリックされていなければ、リンクの表現方法や見せ方を変更する必要があるかもしれない。検索エンジンのどんなキーワードでサイトにたどり着いたのかがわかると、SEO(検索エンジン最適化)対策にも有効だ。このように、ログを見ただけで、ウェブサイトの強さがどこにあり、改善すべきところがどこなのが見えてくるのだ。

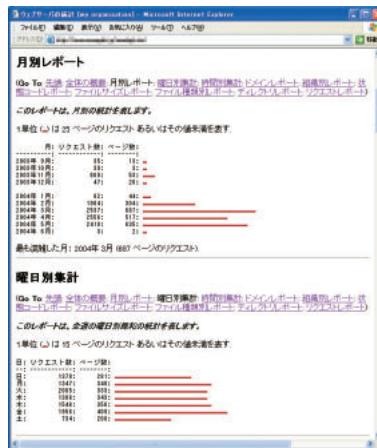
生ログと統計データで

サイト訪問者の行動を解析する

まずアクセス解析ツールで、全体のアクセス数やアクセスの多いページ、曜日や時間帯の特徴、それに切れてしまっているリンクがないかを調べることが大事だ。詳細に利用者の行動を解析できるツールもあるが、生ログを直接見る習慣も必要だ。たとえば、あるアドレスからの訪問ログに着目して、どこからどんな順序でサイト内を閲覧したかを調べると、利用者が何に興味を持ったかを知ることができる。また、サイト内検索機能があれば、ダイレクトに訪問者の知りたい情報を分析することもできる。アクセスログを見なければ、ウェブビジネスは始まらないと言ってもいいだろう。

Analog もっとも一般的な標準サービス

Analogは、Linuxなどでも標準的にインストールされているアクセスログ解析ツールだ。表示や解析条件は細かく調整できないが、大雑把な傾向をつかむには十分。ほとんどのレンタルサーバーで標準で利用できるはずだ。ただ、ログの解析に慣れていない管理者は、理解しづらいと感じるかもしれない。



Urchin グラフィカルなHTMLレポートを作成

Urchinは、グラフ表示がわかりやすく、使いやすい高機能なアクセスログ解析ツールだ。解析の範囲を日、週、月などで指定できる。データ書き出し機能を使えば、タブ区切り形式のテキストファイルに変換できるので、エクセルのグラフで自分なりの解析レポートを作成するときに便利だ。ラビッドサイトの「VPS」やアイルの「ヴァーチャルサーバ・ウルトラプラン」には標準で装備されている。



Easy LogAnalyzer

詳細なデータで本格的な解析が可能

AT-LINK専用サーバサービスがオプションで提供するEasy LogAnalyzerは、詳細な解析結果が表示でき、CSV形式での保存にも対応する。「直前閲覧サイト」解析機能を使えば、どの検索エンジンやリンクされたどのサイトから利用者が訪れているかも容易に解析できるから、営業戦略の立案にも役立つだろう。





Part4

CMSやアンケート収集に不可欠

データベースの種類と対応状況を確認しよう

検索性のためだけではない データベースの使いみち

“データベース”と聞いてパツと思いがたるのは、ショッピングサイトの顧客情報や情報検索だ。そのようなサイトを作るのであればデータベースの必要性はそれほど感じなかっただろう。

しかし、今日ではデータベースの利用機会がグンと増えている。その代表格は、やはりブログだ。ブログは一見すると、日記風の高機能掲示板サイトだが、一方でデータベースからウェブページを生成するシステムと言うこともできる。ウェブサイトの更新・管理が容易なCMS(コンテンツ管理システム)としても使えるので、大規模なサイトを構築するときには便利なツールだ。ブログツールには、Movable TypeやBlosxomのようにデータベースを必要としないものもあれば、Nucleusのようにデータベースのサポートを要求するものもある。一般的には、データベースを使ったほうが快適だ。なお、ツールによっては、対応するデータベースのバージョンにも気をつけておく必要がある。

また、CMSの場合は、データベースのサポートが不可欠なため、レンタルサーバーを使うならその対応状況を確認する必要がある。

簡単・基本のMySQLと 多機能&高性能のPostgreSQL

データベースの選択肢が多いときは、管理が容易なMySQLがおすすだ。用意されている機能は多くはないし、巨大なデータベースシステムには向かないものの、そのぶん手軽に使える。また、日本人開発者が多くかかわっているため、インターネット上で日本語のドキュメントが豊富に手に入る点も使い勝手がいい。

一方、PostgreSQLは市販のデータベースソフトと遜色ない機能と処理速度を持っており、今では商用でも標準的に使われる。自分でデータベースを利用したプログラムを作成せず、データベースソフトをインストールするだけならどちらを選んでも構わないが、一般論として言えば、個人で使うのならMySQL、仕事で使うならPostgreSQLだろう。ただし、表のようにブログツールにはMySQLを必須とするものが多いので注意したい。

ウェブで管理できる データベース開発ツールも登場

データベースと言うと、MySQLならmysqlやmysqladminといった、コマンド



ファイルが提供するDB Managerのテンプレート機能を使って、アドレス入力のテーブルを生成している画面。

データベースの用途

- ・アンケート
- ・掲示板
- ・ブログ
- ・CMS
- ・ショッピングサイト
- ・情報サービス
- (検索性)の提供

データベースソフトの種類と特徴

	最新安定バージョン	ライセンス	主な特徴
MySQL	4.0.20	GNU GPL	複雑なクエリーなどには対応していないが、シンプルで使いやすく、また設定や管理に必要な情報を入手しやすい
PostgreSQL	7.4.2	BSD	高機能かつ高性能なデータベース。複雑なクエリーにも対応し、商用データベースにも引けをとらない
Microsoft SQL Server 2000	SP3	商用	ウィンドウズで設定管理できる。また、Visual Basic、Accessなどの親和性も高く、ウィンドウズ環境に慣れた人には使いやすい

データベースとウェブの連携

PHPなどを使ってリアルタイムにページを生成するphpBBなどのツールの場合、データベースを使うことで検索性が向上したりユーザーの権限を管理したりする機能が実現できる。このことは、CMSでも同様だ。

PHPとデータベースで動く本格的な掲示板システム「phpBB」の画面。登録した会員しか投稿できないように設定できるので、荒らされにくい掲示板を運営できる。会社のサポート掲示板としても使えそうだ。



phpBBのインストール画面。
データベースのタイプを指定する必要がある。

基本設定	
デフォルト言語:	Japanese
データベースのタイプ:	MySQL 4.x
インストール方法を選択してください:	新規インストール
データベース設定	
データベースサーバーのホスト名 / DNS:	localhost
データベースの名前:	test_db
データベースのユーザー名:	test
データベースのパスワード:	*****
データベース内のテーブルの接頭辞:	phpbb_



ライン入力による操作ツールで設定する必要があり、難しいという印象があるだろう。しかし、こういった処理をブラウザでできるサービスを用意するレンタルサーバーもある。

左の画面は、アイルの共用サーバープラン「エキスパート」と「ウルトラ」に標準装備されているデータベース開発ツール「DB Manager」だ。単にデータベースやテーブル(表形式のデータ)の生成管理だけでなく、データの入力やインポート/エクスポートなど、データベースを動かすのに必要な機能が網羅されているので、直感的でわかりやすい。これがあれば、コマンドを覚える必要もなく、初心者でもデータベースの管理が容易にできるだろう。

CMSでウェブサイトを活性化するにはデータベースは不可欠の要素

より本格的にデータベースを利用し、かつウェブサイトを徹底して管理するには

CMSの利用が有効だ。CMSを使うことで、HTMLが書けないスタッフでもデザインの一貫性を維持したままウェブページを更新でき、サイトの管理コストを圧縮する効果も期待できる。また、サイトの更新情報を通知するRSSなどのデータを自動生成できれば、SEOの効果も期待できる。

ただし、市販のサーバーインストール型CMSの場合、おそらくサポート上の理由が優先してデータベースの種類やバージョン、OSを限定していることが多い。また、ミドルウェアが必須になることもある。CMSを使うつもりなら、レンタルサーバーの選択時からその点をよく検討しておかなければならない。市販のツールの場合、CMSの開発、販売会社にあらかじめ相談しよう。CMSとレンタルサーバーを組み合わせる提供しているベンダーもいるし、ラピッドサイトの「VPS」のように無料CMS「XOOPS」対応を謳っているレンタルサーバーも登場している。

簡易アンケートシステムなどはPHPを使って構築しよう

インストールベースのシステムばかりを紹介してきたが、せっかくレンタルサーバーを借りてデータベースを動かすのなら、自前のシステムも構築してみたい。そんなときに必須なのがPHPだ。

PHPはperlによく似たスクリプト言語で、データベースと連携してリアルタイムにウェブページを生成するのも簡単だ。ちょっとした問い合わせフォームやアンケートシステムなら、数十行のスクリプトが書ければ実現できる。PHPはコンパイル変換する必要のない言語だし、HTMLに埋め込むように記述できるから、ウェブページ制作の基本的な知識さえあれば十分に使いこなせる。サンプルを集めた書籍もたくさん出版されているので、情報も十分に手に入る。

たとえば、アンケートシステムをHTMLだけで作ろうとすると、アンケートの回答データはメールで送るしかない。しかし、PHPの簡単なスクリプトを記述すれば、メールで送ると同時にデータベースにも登録するといったことが可能になる。フリーのCGIやレンタルサーバーに付いてくるCGIでは欲しい機能が満たされないときには、この選択肢しかない。

主なツールとデータベースの関係

ツール名称	種別	必要なDB	URI
Movable Type	ブログ	DB不要だがMySQLなどがあるとうい	http://www.movabletype.jp/
Nucleus	ブログ	MySQL	http://japan.nucleuscms.org/
pMachine	ブログ	MySQL	http://www.pmachine.com/
MyPHPblog	ブログ	MySQL/PostgreSQL/Oracle	http://www.myphpblog.org/
GsBlog	ブログ	MySQL	http://www.waf.jp/
XOOPS	CMS	MySQL	http://jp.xoops.org/
TYPO3	CMS	MySQL/PostgreSQL/Oracleなど	http://typo3.org/
phpBB	掲示板	MySQL	http://phpbb.zive.net/
Sky Board	グループウェア	PostgreSQL	http://www.tms-px.co.jp/sky/sky.html

接続プロバイダーが提供するレンタルサーバーサービス

インターネット接続プロバイダーは、以前より接続サービスに加えてウェブスペースを提供している。しかし、ウェブ容量が10MB程度、独自ドメイン名が利用できないなどの制約があり、これで満足できないユーザーのために、レンタルサーバーサービスを提供するプロバイダーが増えている。主にビジネス向けの提供だが、レンタルサーバー事業者に比べて、手軽で安価に利用できる点が魅力だ。接続契約とレンタルサーバーをすべて一括で提供し、そのうえ独自ドメイン名も取れるなど、面倒な契約をまとめて行える。請求書の一括管理の面からも、中小規模の法人にはメリットが大きい。しかし、レンタルサーバー事業者に比べて機能面ではまだ追いついていないところが多いのが現状だ。

プロバイダー名	サービス名称	初期費用	月額費用	備考
@nifty	法人サービス スタンダードプラン Webホスティング(100MB)	5,250円	5,250円	ウェブ容量100MBのプラン(50MB単位で追加可)。メールは10アカウント200MBで、初期費用3,150円、月額3,150円が別途かかる(オプションでウイルスチェックも利用可能)
ASAHI ネット	独自ドメイン名サービス 1	6,300円	2,940円	ウェブ容量100MBで独自ドメイン名で運用可能。1アドレス105円で、メールの転送サービスも使える
BIGLOBE	ビジネスBIGLOBE ホスティングサービス ウェブ+10メール+独自ドメイン	15,540円	4,935円	ウェブ容量50MB、メール10アカウントの場合の料金例。ウェブだけなら月額2,100円のコースもある
DTI	法人向け DTI-Rasch Diversionサーバーサービス	15,750円	4,725円	メール、ウェブともに標準100MB。オリジナルCGIが使用可能
OCN	OCN for business OCNホスティングサービス メール&ウェブ30	3,150円 2	5,040円	メールアドレス30個まで、ウェブ容量60MBのプラン。コントロールパネルも使え、上位プランではデータベースも使用可能
ぶらら	ビジネスぶらら MultiStage	5,250円	3,150円	ウェブ容量は標準で100MB、メールアドレスは無制限の新サービス

1 このほかに基本サービスの接続料金がかかる
2 初期費用はウェブ容量とメールアドレスの組み合わせにより変わる

新機能に続々と対応! 先進レンタルサーバーガイド

レンタルサーバーサービスは、家庭やオフィスにウェブとメールのサーバーを持つことなく、その機能をアウトソーシングできる環境を提供する。サーバーを利用して行いたいことが増えれば、従来なら社内の技術スタッフがそのつど最適なソフトウェアを選択し、サーバーにインストールする作業が発生した。レンタルサーバーは、サーバースペースを提供するとともに各種の機能をインストールして提供する「自前サーバーの代替」であるため、ユーザーのニーズに的確に対応することが不可欠だ。

この結果、レンタルサーバーは以下のようになざまざまなサービスを提供し、さらに進化を続けている。

プロバイダーのメールサービスでは必須となったウイルス駆除サービスも、共用型サーバーであれば標準で提供していたり、専用型であればオプションでサーバーにウイルス駆除ツールをインストールしたりするケースが増えている。また、SSL証明書やクレジットカード決済などを手軽に利用できるように、それらのサービス会社と提携するレンタルサーバー事業者も多い。オン

ラインショップや社内のデータ共有などで利用価値の高いデータベース機能についても、MySQLやPostgreSQLといったデータベースシステムをあらかじめインストールしたレンタルサーバーもある。

すでにレンタルサーバーを利用している場合は、新機能が続々追加されている可能性が高いので、今一度確認するといいたろう。乗り換えを考えている場合は、ユーザーニーズに速やかに対応できるフットワークの軽さを持っている事業者かどうかを見極めることが重要だ。

メール関連サービス

- ・メーリングリスト
- ・メールマガジン
- ・迷惑メールフィルター
- ・ウェブメール
- ・メール転送
- ・メール自動返信
- ・APOP対応メール

ウェブ関連サービス

- ・ホームページスペース
- ・コントロールパネル
- ・アンケート
- ・フォームメール
- ・サイト内検索
- ・アクセス制限
- ・簡単ページ作成ツール

セキュリティサービス

- ・共用SSL
- ・独自SSL
- ・メールウイルス駆除サービス
- ・POP before SMTP
- ・ファイル改ざん通知
- ・ファイアーウォール
- ・パケットフィルタリング

データベース関連

- ・DBインストールサービス
- ・DB開発・管理ツール
- ・PHP対応

アクセスログ解析

- ・生ログ収集
- ・ログ解析
- ・ログのメール送信

オンラインショップ

- ・ショッピングカート
- ・クレジットカード決済サービス
- ・ショップ開設ツール

協賛企業



・AT-LINK専用サーバ・サービス



・ハイパーボックス

ニーズに対応した多彩なオプションをいち早く提供

AT-LINK 専用サーバ・サービス

多彩なオプションと専用サーバならではの使い勝手で、他の専用レンタルサーバ事業者を一步リードするAT-LINK専用サーバ・サービス。使いやすいアクセスログ解析サービスやデータベース(DB)ソフトの無償インストールなど、利用者のニーズをいち早く捉えてサービスを展開する。

使いやすさとわかりやすさで 群を抜く「アクセスログ解析」

レンタルサーバに対するユーザーの要求は年々高まり、それに呼応するように各事業者ともサービス内容を進化させている。なかでもAT-LINK専用サーバ・サービス(at+link)は、ユーザーの多様なニーズに応えるべく、あらゆるオプションサービスを用意している。

サイト運営に欠かせないアクセスログ解析機能も、at+linkが提供する「Easy LogAnalyzer」は、他社でも標準で提供される「Analog」とは比較にならないほどの使いやすさとわかりやすさだ。Easy LogAnalyzerのレポート画面は、3つの基本操作で多彩な解析結果を表示する。

- ① アクセス数はもちろん、検索キーワード解析、都道府県解析といった14の豊富なメニューから知りたい項目を選択する。
- ② 解析期間を指定する。
- ③ 解析結果は見やすくまとめられた一覧表として表示される。この結果はCSVフ

ァイルとしてもダウンロードできるので、ローカルで独自の解析を行うこともできる。

Easy LogAnalyzerは、解析対象サーバのログファイルをFTPで自動的に取得するため、利用者はこの3つの操作を行うだけでいい。使い勝手も含め、アクセス数向上戦略の一役を担う最適のツールだと言えるだろう。

DBの無償インストールと 大小規模に対応するウイルスチェッカー

最近、ブログ、CMS、アンケート集計を利用したサイトのニーズも高まっている。このようなサイトを公開するのであれば、データベースは不可欠だ。at+linkでは、データベースソフト「PostgreSQL」または「MySQL」を無償でインストールするキャンペーンを実施している。通常ならば2万1,000円のインストール料が発生するだけに、データベースの利用を予定しているユーザーは一考の価値がある。



Easy LogAnalyzerのレポート画面は、3つの基本操作で「月別アクセス数」など14項目の解析結果を表示する。

また、最近ではウイルスメールが大きな問題となっている。at+linkではすべての送受信メールにウイルスチェックを実施する「ウイルスチェッカー」を提供している。その内容は大小あらゆる規模のユーザーやサービスに対応できるよう、十分に考慮されている。そのサービス体系を広義に分類すると、中小規模向けの「共用ゲートウェイ型」と大規模向けの「専用ゲートウェイ型」が用意されており、それぞれにユーザーのメールアカウント数に応じた申し込みができるメニュー体系となっている。

このほかにもat+linkでは、Red Hatのセキュリティパッチを2006年末まで無償で提供するなど、他に類を見ないサービスを提供している。こうした姿勢や安く合理的な価格設定が、多くのユーザーの信頼を勝ち取るat+linkの大きな武器だろう。

Easy LogAnalyzerの利用料

共用コース(解析サーバは共用)		
アクセス数/月	初期費用	月額
~3万PV	31,500円	9,975円
~5万PV		15,750円
~10万PV		25,200円
~30万PV		33,600円
~60万PV		58,800円
カスタマイズ	不可	

専用コース(解析サーバは専用)		
アクセス数/月	初期費用	月額
~100万PV	315,000円	52,500円
~200万PV	420,000円	73,500円
カスタマイズ	可能(有償)	

1か月間 運用開始日~運用開始翌月末 無償お試しキャンペーン実施中

AT-LINK専用サーバ・サービスのキャンペーンマシン

名称	CPU	メモリー	HDD	初期費用
スタンダードパッケージ	Celeron 2.4GHz Northwood	512MB	40GB	52,500円
ターボパッケージ / 512MBモデル	Celeron 2.8GHz Northwood	512MB	120GB	78,750円
ターボパッケージ / 1GBモデル	Celeron 2.8GHz Northwood	1GB	120GB	89,250円
モンスター / 1GBモデル	Pentium 4 3.06GHz Hyper-Threading	1GB	120GB	110,250円
モンスター / 2GBモデル	Pentium 4 3.06GHz Hyper-Threading	2GB	120GB	172,200円
モンスター 800 / 1GBモデル	Pentium 4 3.2GHz Hyper-Threading(FSB 800)	1GB	120GB	120,750円
モンスター 800 / 2GBモデル	Pentium 4 3.2GHz Hyper-Threading(FSB 800)	2GB	120GB	182,700円

月間利用料は、東京NOCサービスが30,450円、富山NOCサービスが19,950円、帯域保証回線サービスが23,100円。2台目以降および代理店料金はそれぞれ、23,100円、14,700円、17,850円

問い合わせ先

AT-LINK 専用サーバ・サービス

TEL 03-5785-0555
(営業日 9:30 - 23:00 / 休業日 0:00 - 24:00)

pr-info@at-link.ad.jp

SSL 証明書やショップ運営ツールをパッケージ化したサーバー

Domain keeper

ハイパーボックスが提供する「Domain keeper」は、オンラインショップ開設に必要なサービスプランを新たに用意。SSL証明書の発行サービスも標準搭載し、ネットで商売を展開する法人や個人にピッタリのレンタルサーバーを提供する。

オンラインショップ運営に必要な機能をASP方式でフルサポート

Domain keeperには大きく分けて、「ドメインサービス」「共有サーバホスティングサービス」「専用サーバホスティングサービス」の3種類がある。ドメインサービスは、登録・転送などドメイン周りのサービスを提供するものだ。一方、ホスティングサービスは、ユーザーのサイト規模や用途によって共有か専用かを使い分けることになる。

共有サーバホスティングサービスには、オンラインショップの運営に必要な機能がASP方式でパッケージされた「新ストアマネージャープラン」が用意されている。このプランでは、容量300MBのレンタルサーバーを基本に、128bit SSLアクセス、ウイルス対策、SSL POPメール、クレジットカード決済、コンビニ決済といった技術的機能の提供はもちろんのこと、開業商品・在庫管理 販売 入金 出荷 顧客管理 販売分析といったショップの運営プロセスにおいて必要となる状況の入力や在庫確認など、すべての管理・確認操作

をオンラインで行えるように設計されている。たとえば、顧客管理の部分では、顧客情報の検索や検索結果のCSVファイルのダウンロードも可能なので、アフターフォローやダイレクトメール送信などの販売対策も容易だ。このようにオンラインショップの開業から運営までフルサポートで月額5,250円で利用できる。

128ビットSSLサーバー証明書を24時間以内に発行

なりすましによる個人情報漏洩が問題となる昨今、企業サイトにおけるSSLサーバー証明書の導入は、ユーザーの信頼を勝ち得るための第一歩だ。Domain keeperでは、GeoTrust社の128ビットSSLサーバー証明書「QuickSSL」および「QuickSSL Premium（スマートシール付き）」が利用できる。これらは、法人だけでなく個人事業者でも利用でき、従来のSSL証明書で必要だった登記簿謄本や印鑑証明といった面倒な法的書類の提出や確認



オンラインショップの運営プロセスで必要となる管理・確認作業が、すべてオンライン上で行える。右は受注履歴管理の画面。



を行う必要がない。オンラインで申し込みをして入金の確認が取れれば、その後24時間以内にSSL証明書が発行される。また、企業向けにはTrue BusinessIDとTrue BusinessID Wildcardを用意。こちらは、SSL証明書に企業の実在証明とスマートシールがセットになっており、サイトを訪れるユーザーに対してより高い信頼性をアピールしたい場合に適している。

現在、期間限定で共有サーバホスティングサービス（スタンダード・アンチウイルスプラン）とSSL証明書のパッケージ販売キャンペーンを実施中。証明書設置の作業料が無料になるなどの特典がある。

新ストアマネージャープラン利用料金

プラン仕様	総容量：300MB ユーザー数：50	料 金
初期費用	(A) QuickSSL	26,250円
	(B) QuickSSL Premium(スマートシール付き)	31,500円
	(C) True BusinessID(スマートシール付き)	36,750円
月額費用		5,250円
SSL更新費用 (1年後に発生)	(A) QuickSSL	15,750円
	(B) QuickSSL Premium(スマートシール付き)	21,000円
	(C) True BusinessID(スマートシール付き)	25,750円
契約期間	12か月(12か月以降は1か月前からの連絡後、解約可能)	

すべて税込み料金

SSLサーバー証明書パッケージプランのキャンペーン価格

プラン名	スタンダードプラン	アンチウイルスプラン
初期費用	無料	無料
年間費用	21,000円	30,000円
IPアドレス利用料	12,600円	12,000円
SSL証明書設置作業料	無料	無料
レンタルサーバー費用小計	33,600円	42,000円
+ QuickSSL	52,500円	63,000円
+ QuickSSL Premium(スマートシール付き)	58,800円	69,300円
+ True BusinessID(実在証明とスマートシール付き)	63,000円	73,500円

SSLサーバー証明書の通常料金

	期間	料金
QuickSSL	1年	18,900円
	2年	35,700円
QuickSSL Premium (スマートシール付き)	1年	25,200円
	2年	44,100円
True BusinessID (実在証明とスマートシール付き)	1年	31,290円
	2年	54,600円
True BusinessID Wildcard (実在証明とスマートシール付き)	1年	90,300円
	2年	157,500円

同じドメイン名であれば同一サーバー内複数のサブドメインで利用可

問い合わせ先

株式会社ハイパーボックス
TEL 03-5537-6080
info@hyperbox.com



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp